

米の新品種「星空舞」について

食のみやこ推進課・生産振興課

1. 「星空舞」の概要

- ・ササニシキBL1号に、コシヒカリの子孫にあたる「ゆめそらら」を5回戻し交配し、いもち病抵抗性をもつものを選抜。倒れにくく、高温に強い特性を持ち、等級・食味も優れる。
- ・平成30年6月15日付けで農林水産省に品種登録出願を行い、同年10月30日に「星空舞（ほしぞらまい）」として品種登録出願が公示。

2. 特徴等

(1) 生産者向け

- ・夏場の高温に強く、一等米に格付けされやすい。
- ・コシヒカリより背丈が短く、倒れにくい。
- ・収穫期はコシヒカリと「きぬむすめ」の中間にあたり、作業が分散できる。

(2) 消費者向け

- ・白米は、見た目が綺麗で透き通っている。
※味度値（みどち）（ご飯にした時の白さ・光沢を数値化したもの）が高い。
 - ・炊飯米は、光沢が強く粒感があり、はね返る食感。
 - ・水を抱き込む量が多く、冷めても食感が変わらず美味しい。
- ⇒見た目が綺麗で透き通っており、星取県から生まれた「星のように輝くお米」であることから、「星空舞」と命名。

3. 今後の生産・販売等について

「星空舞」の生産・販売戦略を構築するため、「星空舞ブランド化推進協議会」設立し、ブランド化を推進する。

(1) 生産について

- ・H30年4月に鳥取県産米改良協会が奨励品種に採用。
- ・平坦地の1等米比率向上につながる品種として、H30年度は各JAにおいて、展示ほを5.1ha設置し、試験栽培を実施。
- ・H31年度は大幅に栽培面積を増やし、本格栽培を目指す。
＜生産拡大計画＞（H30年度）5.1ha ⇒（H31年度）300ha ⇒（H32年度）1,000ha
⇒ 概ね5年後の生産目標：3,000ha、本県主食用米に占める割合：25%を目指す。

(2) 販売について

- ・県育成の新たな主食用米の品種として、全農をはじめJAグループと連携して県内外への販路開拓・ブランド化を進めていく。
- ・県のH30年9月補正予算で『「鳥系93号」ブランド化推進事業』（事業主体：JA全農とっとり）を計上。H30年度の収量は20t程度と限られるが、来年度の本格販売に先駆けて、県内外で効果的にPRできる場所を限定し、認知度向上を図る。

＜H30年度の主なPR予定等＞

- ・11月～：県内主要JA直売所（わったいな、愛菜館、満菜館、アスパル）での限定販売
- ・12月1日～2日：米と肉のフェア（わったいな）
- ・1月12日：鳥取県星空保全条例制定1周年記念イベント（試食PR、宇宙飛行士山崎直子さんに贈呈）
- ・1月下旬～：県内学校給食での提供（倉吉市1/29、鳥取市2/19）
- ・2月下旬～：関西圏の高価格帯小売店での試食宣伝販売
（2月22～24日：大阪駅ビル「ルクア」キッチン&マーケット、3～4月頃～：阪急オアシス）
- ・3月17日：東京スカイツリータウン「ソラマチ」のイベントでのPR（ステージイベント、試食PR等）



パネルデザイン



ロゴ